

令和2年度 学校評価 【職員による自己評価】

項目	番号	評価の観点	評定					成果や課題、改善策など	
			4	3	2	1	R2 3, 4割合		R1 3, 4割合
I 学校経営	1	学校の基本方針・教育方針・教育目標を、学校・学年・学級経営に生かすよう努めている。	26	7	0	0	100.0%	100.0%	・育成評価記録書の自己目標を、学校経営方針に基づいて設定し、3回の面談を行って進捗状況を確認している。また、学級経営室も同様に各学級担任で作成している。 ・各個人の目標達成が、学校の教育目標の達成につながるようしていく
	2	教育目標が、各教科等に具体的に生かされるよう努めている。	22	11	0	0	100.0%	100.0%	・各教科担任にも学校教育目標が反映できるような様式で教科経営案を作成してもらい、教育目標が教科指導に生かされるようになっている。 ・今後もこのPDCAサイクルが機能するように努力する。
	3	「開かれた学校づくり」を意識し、学校・家庭・地域の連携が図られるよう努めている。	15	16	1	0	96.9%	100.0%	・日々の学習成果を、家庭に発信するのが難しい。(個人情報の許諾を進め、どこまでのオンライン等が可能か) ・コロナ禍のため地域の方々の連携が思うようにできていない。工夫して地域連携ができるようしていきたい。
II 学年・学級経営	4	教育目標を具現化し、学年・学級経営案の「計画・実施・評価」が行われている。	14	18	0	0	100.0%	100.0%	・学年・学級経営案の目標達成のための手立てを意識し、進捗状況を確認する。 ・週案により、授業の自己評価と反省を生かし、次の授業に繋げる。 ・コロナ禍の中でも、子どもたちの学びを保障できる工夫をしている。
	5	学年目標や学年のきまり等の共通理解を図っている。	23	7	0	0	100.0%	100.0%	・学年朝会を毎月必ず実施し、目標やきまり、安全指導などを学年のすべての担任がいる中で共通確認する。 ・学年会を毎週必ず実施し、指導・支援を同じベクトルでできるようにする。
	6	児童理解に基づき、好ましい人間関係を築く学級経営に努めている。	27	4	1	0	96.9%	100.0%	・まず教師自身が子どもたち一人ひとりを理解し、人権を尊重する(「さしづけ徹底など」) ・道徳や特別活動の他、教育活動全般を通して子どもたちが相互理解を深め、お互いを尊重できるような学級経営・教科経営を行う。
	7	学習の状況がわかる、児童の自己存在感を育む等、掲示物の工夫に努めている。	15	16	1	0	96.9%	100.0%	・教室での背面黒板等を利用した一人ひとりの作品・ワークシートの掲示などを全クラス行っている。 ・前の掲示物をそのままにせず更新していくとともに、作品にはコメント教師や児童同士のコメントを入れるなど、誰かが読んでくれたことをわかるようにする。
III 学習指導	8	保護者との相互理解のため、具体的連携に努めている。	16	15	0	0	100.0%	100.0%	・学校全体としては、たよりやすくメール、Zoom、動画配信、グーグルフォームによるアンケートなどを試したので、次年度もこれらを生かして連携に努める。 ・学年・学級通信や個人面談を通して、保護者と情報を共有することがとても大切。
	9	学習へ向かう基本的態度(学習用具準備、学習規律等)を身につけさせる指導に努めている。	18	13	0	0	100.0%	100.0%	・去年より少し評価が下がっている。「学びの5ルール」を継続的に子どもたちと確認し、徹底できるように粘り強く支援する。 ・授業のスタートで、着席や学習用具、座席の位置や教室の学習環境を確認してから授業の号令をかけさせることを徹底。
	10	身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示を行い、「めあて」に正対した「まとめ」「振り返り」を確実に実施している。	8	21	2	0	93.5%	△	・他の項目に比べ意識を高めることが必要。体育や図工などの実技教科を含め、すべての教科で「めあて」「まとめ」「振り返り」が毎回できるようにする。 ・まとめや振り返りの時間を確保するために、タイムマネジメントをもっと意識する。
	11	学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問や、思考を広げ深めるような発問を行っている。	5	25	1	0	96.8%	△	・努力が必要な項目。指導書などを活用しての事前の教材研究がとても大切。 ・子どもたちの実態を捉え、どの場面でどんな発問をすれば思考が深まるのかを模索。 ・週案やビデオ録画などを通して、授業を振り返り、改善していく。
	12	課題について、児童が自分自身の考えをもつ時間を確保している。	14	17	0	0	100.0%	△	・各学級意識され、工夫されているが、授業を早く進めようとするあまり、考えを持つ時間が十分でない場合がある。 ・グループやペア活動の前に、一度必ず各個人で考えさせる時間を与えること。
	13	学習のねらいの達成に向けた交流場面(ペア学習やグループ学習などの学び合いの場)を設定している。	11	16	2	2	87.1%	△	・コロナ禍で子ども同士のソーシャルディスタンス確保やマスク着用徹底が必要のため、今年度よりにくかった実情がある。 ・マスクや授業後の手洗いを徹底した上で学び合いの場を入れる努力をする。
	14	机間指導等による学習状況の見取り(評価)と支援(指導)を行い、児童一人一人の良さや頑張り認めようバックしている。	17	13	1	0	96.8%	△	・机間巡視が、見取りではなく個別指導になると時間を取ってしまう。この点工夫必要。 ・子どもの良さや頑張り個人に対して、また全体で共有して、褒めるなどのフィードバックを意識して行えば、学習に対しても前向きになれる。
IV 道徳・特別活動	15	県学力向上Webシステムの積極的な活用を行っている。	0	15	13	2	50.0%	80.0%	・利活用する方法がわからない方が多い。年度当初の研修などを実施。 ・学びの確かめや全国学力、到達度調査を入力したら、どの部分が落ち込んでいるかを確認し、解説ではそこを重点的に行ったり、年間指導計画に反映していく。 ・コロナ禍もあり、他の授業が優先されている場合があり評価が下がっている。内容項目のチェックリスト(どこが終わっているか)を週案に貼り、自己点検できるようにするべき。 ・道徳科以外での道徳教育の事例を職員に紹介することもよい。
	16	「道徳科」の授業を、内容項目を確認し、年間計画通り実施して、教育活動全体で道徳教育を進めている。	10	16	2	0	92.9%	95.7%	・道徳推進教師による「道徳科」の評価について、年度当初の職員研修で共通理解できた。 ・子どもたちのどの部分をどう評価したかについて、職員同士で共有し合うこと。 ・教育課程研究集会のフィードバックも行ったので、この成果を今後も活用する。
	17	「道徳科」の評価について理解し、指導に生かしている。	8	21	0	0	100.0%	95.8%	・特別活動の授業実践を、互見授業などで定期的に参加しあう機会を次年度は入れたい。 ・成長を児童が実感するためには、具体的な場面で褒めたり、記録し掲示するなどの地道な努力が必要となる。
	18	特別活動では、具体的な「目標」を持たせ目的意識を育むとともに、成長が実感できる活動を工夫している。	7	20	1	0	96.4%	△	・子どもたちの作品やワークシートなどを掲示することはできているので、スタンプを押したり朱書きコメントを入れて、見やすい場所に貼り、見る機会を持たせること。 ・日々の授業や朝・帰りの会での発表など、毎日承認の機会を持つ。
V 特別支援教育	19	一人一人の努力や成長・貢献を丁寧に見取り具体的に承認・勇気づけのメッセージを伝えている。	18	15	0	0	100.0%	△	・各学級とも係活動、当番活動、委員会活動などが割り当てられ、機能している。 ・活動後の反省(フィードバック)や上記19にある「承認・勇気づけメッセージ」を与える機会を必ず持つようにすることが課題。
	20	係活動や学級活動等の充実を図っている。(児童個々に役割があり、自己有用感を高める活動)	13	15	3	0	90.3%	△	・その児童に合った、話し合う場面や指導を行ったり、保護者と定期的に連絡を取り、情報を共有している。 ・個別的教育支援計画、個別の指導計画の活用。
	21	特別支援教育について全職員の共通理解のもと実施されている。	29	3	0	0	100.0%	100.0%	・支援学級の児童が多い中、協力学級との適切な交流が図られている。 ・協力学級の中でも特別な支援が必要な児童には、特支担当の力を借りている。 ・合同委員会で情報交換を今後も活性化させる。
VI 研究・研修・学推	22	特別な支援を要する児童の実態を把握し、適切な支援を行うよう努めている。	21	11	0	0	100.0%	100.0%	・各学年で校内研究のテーマに沿って授業研究会を行い、指導主事からの助言を踏まえ評価・改善をしている。 ・学年での実践を、校内研究通信を通して全体に共有しているので、今後も継続していく。
	23	特別支援学級在籍児童への共通理解が図られ、学年・学級との積極的な交流学習に努めている。	20	12	0	0	100.0%	100.0%	・算数の研修は昨年に引き続いて、「主体的・対話的で深い学び」ができる授業改善を行うため、「かく活動」をテーマとして全職員で研修を行っている。 ・その他、評価や学習指導要領、情報関係など必要に応じて研修を計画した。
	24	研究主題を意識し、研究内容・計画に基づき、評価・改善を行いながら研究を進めている。	17	14	1	0	96.9%	100.0%	・年度当初に学力向上推進について共通理解の上、年間計画に基づいて研修を進めてきた。 ・今後も研修結果を次年度以降に生かすため、研修記録を残し、PDCAサイクルが機能するよう全職員で取り組んでいく。
	25	学校の課題に即した研修が行われている。	18	14	0	0	100.0%	100.0%	・各学級とも、学力向上推進の共通実践事項として意識して行っているが、学級間の差がないように学年会などで毎回共通確認する必要がある。 ・教職員評価システムの育成評価記録書に、目標達成のための手立てとして入れている職員も多い。
	26	学推の取り組み内容や計画に基づき、全職員の共通理解のもと実践している。	21	11	0	0	100.0%	100.0%	
27	授業と連動した宿題(課題)を与えている。	18	12	1	0	96.8%	100.0%		

項目番号	評価の観点	評定						成果や課題、改善策など
		4	3	2	1	R2 3, 4割合	R1 3, 4割合	
VII 生徒指導・ 教育相談	28 毎月の生活目標を意識し、意図的・計画的な生活指導に努めている。	11	19	3	0	90.9%	100.0%	・月目標が先月、先々月から変わっていない学級もある ・学年朝会があまりできない状況の為、生活目標の確認を忘れがちなので、月初は意識して学級の時間に確認する。
	29 「自己存在感を育む・共感的人間関係を築く・自己決定の場を与える」を意識した教育に努めている。	18	15	0	0	100.0%	100.0%	・他の学力向上のポイント(授業における基本事項)に加え、授業参観においては常にこの生徒指導3つのポイントを意識して参観している。 ・この3つのポイントについて、どう授業で実践するのかの事例紹介などを行う必要あり
	30 いじめ・不登校・問題行動等に関して、学校全体の指導体制が確立し、共通理解の基指導が実施されている。	17	15	0	0	100.0%	100.0%	・昨年に比べ「4」評価は減少しているが、児童支援合同委員会や終礼、職員会議などの機会に常に情報共有をしようとしている。 ・必要の際は管理職や養護教諭、教育相談担当、外部機関とも連携している。
	31 児童をさんづけ呼称し、丁寧な言葉づかいを意識している。	11	18	4	0	87.9%	96.6%	・本校の課題である。授業の中でも徹底できていない職員の割合の方が高いので、コンプライアンスシートなどで毎月セルフチェックを行っている。 ・管理職からも適時呼びかけをし、児童の人権尊重を重視している。 ・「さん」付けで呼称する事が、少しずつ定着しつつあり、子どもたち同士でもさん付けで呼名し合う場面が見受けられるという意見もあった。
VIII 健康・安全・ 食育	32 生命尊重や人権教育を基盤とした保健指導を意図的に進めている。(新型コロナウイルス対策・エイズ・性教育等)	25	7	0	0	100.0%	100.0%	・職員研修や人権週間、レッドリボンの取り組みなどで昨年よりも評価は上がっている。 ・今後も職員が意識を高く持ち、子どもたちの人権や生命を第一に考えて保健指導を推進していく。
	33 安全点検の実施と対策は適切である。	19	14	0	0	100.0%	100.0%	・昨年より「4」評価は現象しているが、係を中心に安全点検ファイルに記録をし、安全面で大切な部分を優先して対応している。 ・まだ完全に修繕されていない点を、委員会や業者と連携し改善する。
	34 安全確保に向けた環境の整備と安全・防災教育を日常的に実施するよう努めている。	20	13	0	0	100.0%	100.0%	・交通安全指導や避難訓練のやり方を工夫するなど、コロナ禍において最大限の教育を行った。 ・次年度の計画で、効果的な環境整備、教育活動ができるよう準備が必要である。
	35 望ましい食習慣の形成や好ましい人間関係を育てる食育の意識を持ち指導に努めている。	17	14	0	0	100.0%	100.0%	・食の大切さを伝えたり、給食指導をしたりしているが、子ども達の偏食や食事をとる量がなかなか改善されず、どのような指導をしたらよいのか悩んでいる学級もある。 ・栄養教諭と連携して、食育の授業を効果的に実践している学年があるので、次年度は全学年でこの計画を組み込むようにしたい。
IX 組織・ 運営	36 職員同士の連絡調整が図られ、協力体制を築けるよう努めている。	24	8	1	0	97.0%	100.0%	・校務会を4者で行い、企画委員会、職員会議などの連携の場を設け、Zoomや校内放送を活用しながら協力体制を築いた。 ・学年経営や組織としての動きに差や確認不足があったので、連携する場を設け、意識する。
	37 校務分掌について自主的・計画的に職務を遂行するよう努めている。	18	14	1	0	97.0%	100.0%	・教職員評価システムの面談では、校務分掌においても目標設定や達成のための手立てを書いてもらい、各職員で職務の遂行に努めている。 ・全体を見る立場からの支援力を入れる必要がある。
	38 備品の効果的な活用、整理整頓に努めている。	18	15	0	0	100.0%	100.0%	・備品点検や備品整理の機会を長期休業中にとるなど工夫し取り組んでいる。 ・コロナウイルス対策で備品や消耗品の購入が増えたので、それらを効果的に活用できるよう手立てを工夫していく
	39 公簿等は適切に整理・保管されている。	27	6	0	0	100.0%	100.0%	・1学期末に学級・学年会計簿をまとめ、各学級とも適切に処理されている。 ・公簿等の管理について毎月のコンプライアンス確認シートでセルフチェックしている。 ・今後も会計を適切に行えるよう先を見通して学年会などで呼びかける。
X 家庭・ 地域 連携	40 個人情報の取り扱いに十分配慮している。	27	6	0	0	100.0%	100.0%	・個人情報の管理について毎月のコンプライアンス確認シートでセルフチェックしている。 ・USBなどの個人情報持ちだしについての服務事故の事例研修を行った。 ・引き続き職員が意識を高く持ち、持続して配慮できるよう研修を行う。
	41 保護者や地域、関係機関との連携を密にし、本校教育への協力を得られるよう努めている。	19	13	0	0	100.0%	100.0%	・すぐメールやホームページを通して情報を共有するとともに、公文などで保護者への連絡・連携に努めた。 ・学級によって保護者への連絡不足など課題もあり、全学級で意識を高める必要あり。
	42 保護者や地域からの要望は、学年や管理職へ迅速に報告し、誠実に対応するよう努めている。	22	10	0	0	100.0%	100.0%	・報告・連絡・相談については昨年度に引き続き高い意識で行われている。 ・面談のあとに各学級への要望事項を各学級に書いてもらい共有した。 ・学校評価の保護者意見の対応について、全職員で共有している。
	43 地域行事やPTA活動に積極的に参加し、連携を深めるよう努めている。	9	16	4	3	78.1%	100.0%	・コロナ禍における今年度は、行事も削減されているため行事や活動が限定的であった。 ・そのため、昨年より評価は下がっているが、110周年での地域功労者の表彰、地域への栽培委員からの苗の寄贈など、できることを行ってきた。 ・次年度落ち着いたら、連携を積極的に行えるよう計画する。
XI 環境 整備	44 校舎・施設の管理・維持・美化・修繕に積極的に協力している。	18	15	0	0	100.0%	100.0%	・安全担当や環境整備担当、委員会との連携により校舎・施設の維持管理や整備修繕について年間を通して力を入れた。 ・今年度は子ども園舎の新築工事があり、引き続き尽力する必要がある。
	45 清掃分担は適切である。	23	10	0	0	100.0%	100.0%	・週2回の清掃でも十分保整が保たれるよう、全体の分担や学級での分担を適切に行っている。 ・必要に応じて清掃回数や分担の人数などの調整は必要である。
XII 小中一貫 キャリア 教育	46 安岡中グループの目標や共通実践事項を意識した教育活動を行っている。	8	23	1	0	96.9%	100.0%	・特に高学年において、中学校への進学に向け、意欲を持って児童が頑張っているよう、共通実践事項(キャリア教育など)に力を入れる。 ・コロナ禍の中、小中一貫コーディネーターを中心にできるだけ効果的に教育活動ができるよう全職員で協力した。
総合 学習	47 全教育活動を通して、キャリア教育を意識している。	13	20	0	0	100.0%		・今年度からのキャリアパスポートの活用について、係を中心に全職員で取り組み、進級・進学に向けて子どもたちの意識を高める必要がある。 ・キャリア教育を通して身につけさせたい4つの力(基礎的・汎用的能力)を、全教育活動において意識できるように工夫する。
	48 総合的な学習の時間では、児童が主体的に問いを見だし、情報を調べたり、表現したりすることができている。	5	17	1	3	84.6%		・今年度新設の観点である。他の授業と同様、「主体的・対話的で深い学び」につながる総合学習にするための工夫改善を進める必要がある。 ・1, 2年は総合学習はないが、生活科や各教科の内容について3年生からの総合学習で自ら調べたり表現したりできるようにするための素地を形成させていきたい。
	49 保育園、こども園などとの連携や情報交換ができている。またはできているように思える。	10	18	2	0	93.3%		・特に安齋こども園が園工室に来てから、連携がしやすくなった。 ・3回の保幼こ小連絡会を持ち、情報交換に努めた。 ・今後、コロナ禍における交流のあり方を話し合う必要がある。
情報 教育	50 パソコン室を活用したり、教育計画にある各学年の情報教育を推進している。	15	10	4	0	86.2%		・各学年のコンピュータ指導計画を見直し、コンピュータを使ってできることにもっと取り組めるようにすべき。 ・GIGAスクール構想による一人一台タブレットの活用について研修を行う。